

# トンネル被覆栽培について

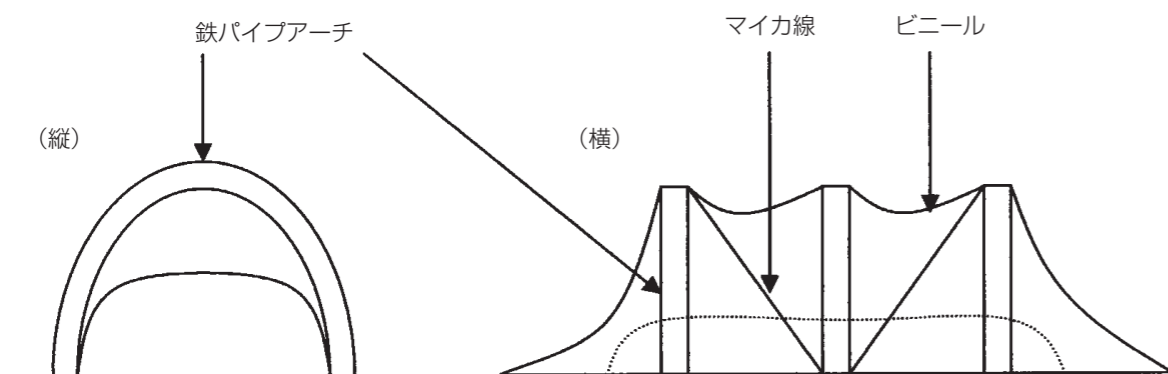
## 12月の農作業

# 水稲土づくりのポイント

## 12月の農作業

野菜の露地栽培は冬になると低温や降霜のために、生育が遅くなったり、寒害にあうなど、良品質のものが収穫できなくなるだけでなく、収量、出荷とも少なくなってきます。このような冬期に野菜栽培を行うには、防寒資材が大変役立ちます。

### トンネルとは



### トンネル栽培の効果

- 防寒・防霜**……冬作の収穫期間を長くする、トウ立ちを防ぐ。最低気温を少しでもやわらげる。
- 防 暑**……日差しを和らげ、気温や地温の上昇を防ぐ。
- 防 風**……強すぎる風勢を和らげて株を守る。
- 保 湿**……土壌の水分を保ち、乾燥を防ぐ。
- 防 虫**……コナガなどの害虫が卵を産み付けにくのを防ぐ。
- 防 鳥**……トマトなど野菜の実が鳥に食べられるのを防ぐ。



\*密閉状態を長く続けると育ちが軟弱になり、冬の寒害を受けやすくなりますが、適度に喚起すれば、育ちはゆっくりですが健全に育ってくれます。

### 注意点

雨よけ効果があり、降雨による病害の発生は軽減されますが、トンネルを閉めたままだとトンネル内が過湿になり、病害が発生しやすくなるので注意しましょう。また、気温の高い日は閉めたままだと葉が焼けてしまうので、天気を見ながら開閉を行いましょう。

トンネルを二重に張ることによって、保湿性が格段に上昇します。二重に張る場合は、畝の大きさ等十分考慮して行いましょう。寒冷紗等を組み合わせることにより、遮光・高温対策・害虫対策を行えます。

裏面は水稲土づくりのポイントを掲載しています。

農作業のページは取りはずして別に保存し活用してください。

No.260 平成24年12月18日発行

近年、夏期の高湿等気象の変化が米の品質低下に大きく影響しています。水稲品質向上、収量安定のためにも、土壌改良資材投入による土づくりが重要です。次年度作付に向けてしっかりと土づくりをしましょう。

### 深耕して、地力を高めましょう。

- 深耕は、根域を広くし、地力を高めることで、穂数、根量が増え、収量、品質の向上につながります。
- 深耕は、数回に分けて耕うんし、徐々に深くしていきましょう。

### 土壌改良資材を施用しましょう。

- 堆肥は有機物を補給し、地力増強に役立ちます。堆肥施用が難しい場合は、アツミンを施用しましょう。有機物の施用は地力の向上、増収効果があり、窒素吸収量が確保できます。
- ケイ酸は稲を硬くし、倒伏・いもち病の予防になります。ケイカルを施用することで、葉・茎を堅くし、根の活性を高め秋落ち防止にもつながります。
- 秋落ち田には含鉄資材の転炉サイが効果的です。根腐れを防ぎ、秋落ち防止につながります。鉄分は土壌の下層に沈降しやすいので、冬の間に天地返し等行って鉄分を上にもどす。



### 管内の土壌について

平成22年度・23年度に2年間で集落平均で5点の分析を行い、各町における分析結果と傾向を示しています。

### 分析試験結果

分析試験項目 試料名	pH(H <sub>2</sub> O) (pH)	電気伝導率 (EC) (mS/cm)	カルシウム (mg/100g)	苦 土 (mg/100g)	カ リ (mg/100g)	CEC (陽イオン交換容量) (meq/100g)	リン酸 (mg/100g)	腐 植 (%)
項目の説明	土壌酸度を表している。 pH ← 7.0 → 酸性 アルカリ性	土壌中の肥料の多さを示している。	細胞と細胞の中にあつてその生成と強化に関係している。	リン酸吸収を助ける。	根の発育を促進させる。	保肥力を表し、数値が高いほど保肥力が高い。	作物の根や茎の生育を促進させる。	地力の維持に必要。
目 標 値	6~6.5	0.2~0.4	200~250	25~35	20~30	12以上	10~30	3~5
一宮平均	6.1	0.1	208.3	20.9	21.4	12.9	20.4	4.2
波賀平均	5.8	0.1	183.3	16.5	15.2	12.6	19.5	5.6
千種平均	5.7	0.1	141.9	16.3	11.2	10.5	11.5	5.0
傾向と対策	酸性が少し強いので、石灰を施用する。	基準値より少ないので栽培こよみの施肥基準を守る。	基準値以下の箇所が多いので石灰を施用する。	基準値以下の箇所が多いので苦土重焼燐を施用しましょう。	基準値を下回っているため、カリ肥料を施用する。	有機物の施用で保肥力が維持できるので堆肥やアツミンを施用しましょう。	基準値内の箇所が多いですが苦土重焼燐を施用しましょう。	地力は基準値以上ですが、地力維持のために有機物を施用しましょう。

土壌分析の結果、一宮、波賀、千種、旧3町平均して、リン酸、カルシウム等が不足している状況です。また、保肥力維持のために有機物の施用は必要です。

裏面はトンネル被覆栽培についてを掲載しています。

農作業のページは取りはずして別に保存し活用してください。

No.260 平成24年12月18日発行